様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３３９３７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2017
課題番号：２５３８１１４７

研究課題名（和文）発達障害傾向で就業困難が予測される学生に対する診断によらない支援研究

研究課題名（英文）Study of support that does not depend on diagnosis for students who have developmental disorder tendency and are predicted to be difficult to find employment.

研究代表者
肥田　幸子（HIDA, SACHIKO）

愛知東邦大学・人間健康学部・教授

研究者番号：９０４６５５９２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,000,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の目的は発達障害とは診断されていないが、似た特性から就業に困難を示す学生に対する支援方法の開発である。彼らは将来を見通す能力や対人関係や場の理解能力に共通した弱さをもつ。それらを“見通し力”と命名することで、問題を焦点化し対応方法を一般化した。
　研究成果としては、「見通し力」「見通し力・就業」の2つの尺度を完成させた。それぞれは適宜、学会発表、論文発表を行った。支援プログラムとしては若年者ハローワーク等と連携し、「弱点や強みを見つけるための就労体験」を行い成果を上げている。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is not diagnosed as developmental disorder, but development of support method for students who show difficulty in employment from similar characteristics. They have a common weakness in their ability to predict the future and interpersonal relationships and good understanding of their position. By naming them " mitoshi-ryoku ", we focused the problem and generalized the way we responded.
As a result of research, we have completed two scales of " mitoshi-ryoku" and " mitoshi-ryoku・syugyou(Ability to estimate the future based on past experience to establish a career)". Each of them gave academic presentations and paper presentations as appropriate. As a support program, we cooperated with the public employment security office for young people and achieved results by practicing "workplace experience to find weaknesses and strengths".

研究分野：臨床心理学

キーワード：見通し力　スクリーニング　「見通し力」尺度　「見通し力・就業」尺度　学内外連携　就労体験

１．研究開始当初の背景

（1）2013 年頃は発達障害に関する理解も進み始め、高等教育機関においてもさまざまな支援の手段が行われるようになった。しかし、未診断の者、発達障害傾向（グレーゾーン）の者に対しては理解や支援の手が行き届かず、メンタルヘルス不調や退学になる者も少なくなかった。就職できず引きこもってしまう例が申請者の周りに目立つようになった。

発達障害及び発達障害傾向をもつ学生の多くが自覚のないまま高等教育機関まで進学している。発達障害であるという自覚や診断を得ることなく大学を卒業し、社会適応の段階で就職等の社会的自立に大きく困難を抱えることになる。

（2）申請者は長年にわたり、高校生を対象にメンタルヘルス調査を実施してきた。『学校不適応を予防するための試み－高校メンタルヘルス調査からみえたもの－』（肥田･鈴木、2009）では、教員のメンタルヘルス不調生徒に対する理解等について述べている。また、大学生の就職、就業意識についても関心があり、『大学生の就職活動に関する意識調査』（肥田･澤田、2010）、『大学生の就業意識形成のプロセスに関する研究』（肥田･澤田、2011）『大学生の進路選択行動に影響を与える要素』(肥田･澤田、2012)等の大学生の就業に関する研究も進めてきた。これらの研究や前述した社会的要素を鑑みて「発達障害傾向で就業困難が予測される学生に対する診断によらない支援研究」を進めるに至った。

２．研究の目的

近年、発達障害あるいはその傾向をもつために就労することが困難な大学生が増加している。ニートという言葉で表される就業困難な若者の問題に対し、教育機関において果たすべき課題は多い。この研究は、発達障害とは診断されていないが、似た特性をもち、就業に困難を示す可能性のある学生に対し、新しい切り口からの支援方法を開発するものである。彼等は対人関係や場の理解をする能力、将来を見通す能力に共通した弱さをもっている。それらの能力を「見通し力」と命名することで、問題を焦点化し対応方法を一般化しようとした。具体的には、見通し力尺度を作成し、見通し力強化のプログラムを作成する。これらの尺度やプログラムは多くの高等教育機関、施設、行政サービスでの活用が可能であろう。結果的には発達障害やその傾向のある学生の潜在的な能力の開発と自己実現を支援するものである。

３．研究の方法

本研究は査定研究と支援研究から成り立っている。支援研究においてはカウンセリング、グループワーク等いろいろの試行錯誤があったが、最終的には在学中の就労（アルバイトを含む）体験とそれを素材にしたカウンセリングが有効であることが分かった。以降、外部との連携を中心に展開した。

（1）査定研究

①大学１年生約 300 名を対象に調査を実施し、「見通し力」尺度を作成した。

②大学 2,3 年生約 200 名を対象に調査を実施し、「見通し力･就業」尺度を作成した。

③スクリーニングされた学生を中心に調査を継続し、臨床的妥当性を検討している。

（2）支援研究

①学生課、就職課、学生相談室を中心に大学内での支援ネットワークを構築した。

②新卒応援ハローワーク、就労移行支援所等を中心に外部ネットワークを構築した。

③適応、就労困難が予測される学生に対して、外部機関と連携を取り支援を実施した。同時に保護者支援も行った。

４．研究成果

（1）「見通し力」尺度の作成

研究標題の「発達障害傾向で就業困難が予測される学生に対する診断によらない支援研究」にあるように、診断によらないということが本研究の重要な課題のひとつであった。教育機関の中で発達障害傾向の学生をスクリーニングする場合、カットオフポイントがあり障害のラインが引けてしまうような既存のテストを使用することは人権の観点から難しい。加えて重要なことは診断ではなく、どの学生にどのような支援が必要かを見出すことである。本研究では、過去の体験の上に現在を構築し、そして未来をイメージする、この時間の感覚を縦の繋がりとし、現在の対人関係や場の理解を横の広がりと見た推察力を「見通し力」という名前で便宜的に定義した。（図 1）

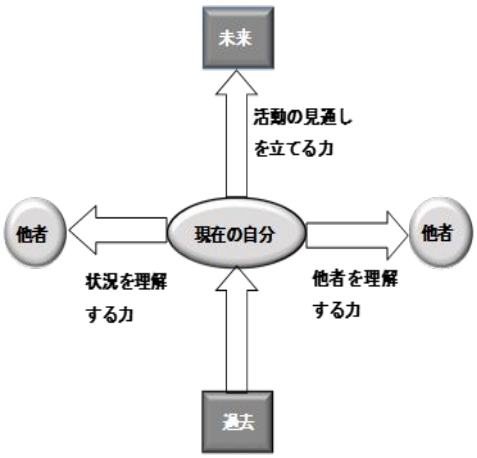

図 1「見通し力」のイメージ（過去の体験の上に現在を構築し、そして未来を予測する、また現在の対人関係や場の理解をする力を「見通し力」とする）

大学生の調査結果をもとに探索的因子分析を実施した結果、21 の項目「時間的予測力」「場の理解力」「感情推察力」の 3 つの因子が見出された。これらの項目の内的整合性、

再検査信頼性や基準関連妥当性、構成概念妥当性も証明された。（表１）

表１見通し力尺度

表１　見通し力尺度における因子分析結果

質問項目	因子 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
Ⅰ．時間的予測力　α=.770			
物事をよく見て、全体像を捉えることができる	.670	.284	.187
先を見通して計画をたてることができる	.647	.096	.128
自分の将来は自分で切り開く自信がある	.607	.070	.031
やるべきことをテキパキ片づけることができる	.676	.189	-.010
何が起きているのかを、広い視野からみている	.669	.291	.181
私は将来の自分について考える事がある	.600	-.031	-.035
私は自分の役割に応じて行動することができる	.353	.184	.370
やるべきことの優先順位を付けるのが苦手である*	.352	.242	.010
Ⅱ．場の理解力　α=.726			
話題を見つけたり、雑談に加わったりすることが苦手である*	.016	.660	.196
暗黙の了解事項を理解するのが苦手である*	.196	.628	-.028
話すタイミングを判断するのが苦手である*	.144	.617	-.067
周りの様子に気を取られて、話しを聞くことができない*	.239	.617	-.009
突然の変更があると不安になる*	.264	.435	-.173
空気を読めないと言われたことがある*	.056	.417	-.020
Ⅲ．感情操作力　α=.714			
私には、他人にどう思われたいかを意識して、つきあい方を変えていく力がある	.079	-.176	.619
友だちの目からは物事がどう見えるのだろうと想像し、理解しようとする	.022	-.066	.698
誰かに対し腹が立ったら、しばらくその人の立場に立ってみようとする	.083	-.176	.644
この人は不安なのだなというように、人がどう感じているかに敏感な方だ	.159	-.212	.634
私は周りの状況に合わせて、自分の行動を変えていくことができる	.236	.261	.509
怒っている人がいたら、どうして怒っているのだろうと想像する	-.117	-.138	.499
私は、相手が自分のことを誤解しているとき、その誤解をとく行動ができる	.132	.169	.355

主因子法，プロマックス回転　*逆転項目

(2)「見通し力･就業」尺度の作成

大学生約 150 名を対象に調査を実施した結果、21 の項目と 3 つの因子が見出された。因子はそれぞれ「長所や適性を把握する力」「就労をイメージする力」「前に踏み出す力」と命名された。これらの項目の内的整合性、再検査信頼性や併存的妥当性、構成概念妥当性も証明された。（表 2）

表２見通し力･就業尺度

Table1 就業力尺度の因子分析結果(信頼性)

	因子 Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
Ⅰ．長所や適性を把握する力(α=.794)			
自分はどのような職業に向いているのか分かってきた	**.730**	-.031	-.004
自分の将来の職業についてイメージすることができる	**.716**	-.069	-.006
社会人としていかせる、自分の長所を知っている	**.685**	.053	-.066
自分のできることや能力については自覚がある	**.566**	.022	.117
自分にはどうしても就きたい仕事がある	**.566**	-.070	.003
決められたことが決められた時間内にできる	**.454**	.056	.011
おおむね、規則正しい生活リズムを保つことができる	**.414**	.017	.102
Ⅱ．就労をイメージする力（α=.791)			
仕事以外に何か自分の楽しみをもつことが大事だと思っている	-.035	**.765**	.026
職業というのはそれぞれに向き不向きがあることが分かっている	-.020	**.710**	-.141
何か仕事に就かなければいけないと思っている	-.107	**.676**	-.003
職場や日常の中で、挨拶がきちんとできる	.126	**.637**	.068
社会人として、遅刻は許されないことだと思っている	-.077	**.549**	.049
社会人としては困る、自分の弱点を知っている	.207	**.434**	-.266
トラブルが起こったとき、自分の責任についても考えることができる	.349	**.419**	.035
Ⅲ．前に踏み出す力(α=.701)			
失敗したとき、謝罪ではなく言い訳をしてしまう癖がある*	-.033	.003	**.556**
謝罪やお礼を言うことがなかなか難しい*	-.111	.293	**.540**
気分が落ち込んで何もしたくない日が続くことがある	.082	-.243	**.524**
親が言うから仕方なく仕事をしなければならないと思っている*	-.052	.252	**.506**
できることなら就職しないで自分の好きなことだけやっていたい*	-.001	-.036	**.478**
わからないことができたとき、質問しやすい人を見つけることが下手である*	.146	-.021	**.436**
夜更かしをする癖が、なかなかなおらない*	.203	-.171	**.409**

*逆転項目

(3) 学内外のネットワークの完成と事例

下図のようなネットワークを現在学内外で構築した。

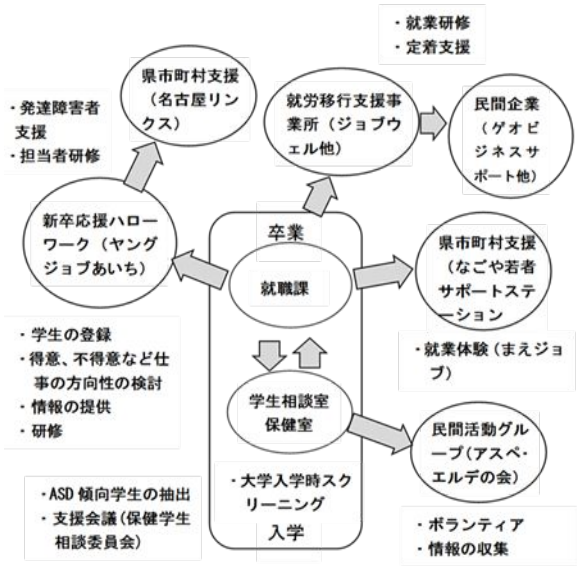

図２　学内外のネットワーク

①スクリーニングでピックアップされた学生を入学時保健資料などと共に学生課･学生相談室で作成した。以降、学内ではゼミ担当者と連携しながらバックアップし、就職時期になると就職課を含めて支援した。

②課題のある学生は卒業までに新卒応援ネットワークと連携し、就労移行支援所や市町村の若者社会体験支援事業が実施している就労体験に参加した。

③学内担当者の研修等は県市町村の就労支援（名古屋リンクス）を使用した。実際に障害者雇用を行っている企業の見学も実施した。

④事例

A さん大学 4 年生　発達障害の診断なし。「見通し力・就業」チェックで要支援。成績はよいが対人不安で就業意欲が低い。新卒応援ハローワークを通じて、市町村の若者社会体験支援事業（なごや若者サポートステーション）から就労体験をさせてもらった。スモールステップであるが前進している。

B さん大学 4 年生　発達障害の診断なし。就労移行支援所から就労体験を実施、就労意欲につながった。

C さん大学 4 年生　発達障害の診断あり。就労移行支援所から就労体験を行ったところ、実施企業が就職を誘ってきたので、その企業に就職した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　3 件）

(1) 肥田　幸子（Hida Sachiko）・堀　篤実

（Hori Atumi）・鈴木　美樹江（Suzuki Mikie）「自閉症スペクトラム障害傾向を有する学生のための“見通し力”尺度作成の試み」『学生相談研究』、第 37 巻、1 号、2016 年、27-36　査読有り
（2）・肥田幸子（Hida Sachiko）「自閉症スペクトラム傾向の子どもをもつ母親の心理的体験過程」『東邦学誌』第 45 巻、1 号、2016 年、49-59　査読なし
（3）肥田幸子（Hida Sachiko）「発達障害傾向をもつ高校生の自己認知の特性」―教師の理解との相違点を探る―『学校メンタルヘルス』Vol.18-1、2015 年、22-29　査読有り

〔学会発表〕（計　8 件）
（1）肥田幸子（Hida Sachiko）・堀篤実（Hori Atumi）・鈴木美樹江（Suzuki Mikie）「ASD 傾向学生のための就業力尺度の作成（１）－項目の作成と信頼性の検討－」2016 かがわ国際会議場　日本教育心理学会第 58 回総会論文集 PD87
（2）堀篤実（Hori Atumi）・肥田幸子（Hida Sachiko）・鈴木美樹江（Suzuki Mikie）「ASD 傾向学生のための就業力尺度の作成（２）－尺度の再検査信頼性と妥当性の検証－」2016 かがわ国際会議場　日本教育心理学会第 58 回総会論文集 PD88
（3）鈴木美樹江（Suzuki Mikie）・肥田幸子（Hida Sachiko）・堀篤実（Hori Atumi）「ASD 傾向学生のための就業力尺度の作成（３）－見通し力が就業力に及ぼす影響－」2016 かがわ国際会議場　日本教育心理学会第 58 回総会論文集 PD89
（4）肥田幸子（Hida Sachiko）・堀篤実（Hori Atumi）・鈴木美樹江（Suzuki Mikie）「見通し力尺度作成の試み（１）」－大学生を対象として－　2015 日本教育心理学会　第 57 回総会　新潟朱鷺メッセ　日本教育心理学会第 57 回総会論文集　2015
（5）堀篤実（Hori Atumi）・肥田幸子（Hida Sachiko）・鈴木美樹江（Suzuki Mikie）「見通し力尺度作成の試み（２）」－尺度の信頼性と妥当性の検証－　2015　日本教育心理学会　第 57 回総会　新潟朱鷺メッセ　日本教育心理学会第 57 回総会論文集　2015
（6）鈴木美樹江（Suzuki Mikie）・肥田幸子（Hida Sachiko）・堀篤実（Hori Atumi）「見通し力尺度作成の試み（３）」－AQ 下位尺度が見通し力に及ぼす影響－　2015　日本教育心理学会　第 57 回総会　新潟朱鷺メッセ　日本教育心理学会　第 57 回総会論文集　2015
（7）Hida Sachiko Okubo Yoshimi Suzuki Mikie「Perception Gap between Japanese Teachers and High-school Students on Developmental Disorder Tendency」The 35th International School Psychology Association Conference (ECP 2013) 17-20 July 2013 Porto Portougal
（8）肥田幸子（Hida Sachiko）　大学教育改革フォーラム 2018「発達障害及び発達障害傾向学生への支援の現状」発表者 2018

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
肥田　幸子　（Hida Sachiko）
愛知東邦大学　人間健康学部　教授
研究者番号：90465592

(2)研究分担者
堀　篤実　（Hori Atumi）
愛知東邦大学　教育学部　教授
研究者番号：10320962

鈴木　美樹江（Suzuki Mikie）
人間環境大学　人間環境学部　助教
研究者番号：20536081

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者
（　　）